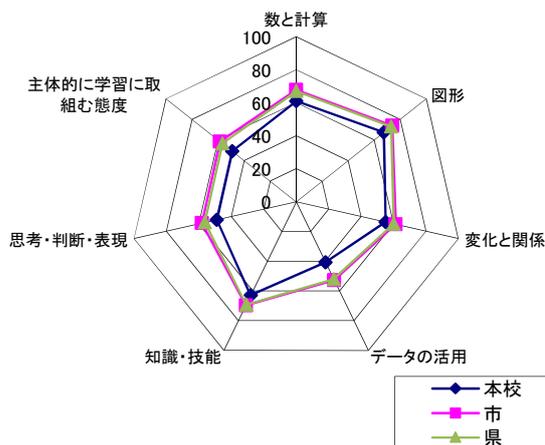


宇都宮市立宝木小学校 第5学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	61.0	67.8	67.0
	図形	67.4	73.9	73.1
	変化と関係	55.2	61.4	60.2
	データの活用	40.7	52.7	52.1
観点	知識・技能	62.9	69.7	69.2
	思考・判断・表現	48.9	58.1	56.3
	主体的に学習に取り組む態度	49.2	58.5	56.7



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は、県の平均と比べ低い。</p> <p>○基準量を求める除法の文章問題を表した図を選ぶ問題の正答率は70.6%で、県より2.5ポイント上回った。</p> <p>●除法の計算の仕方を工夫して暗算する問題の正答率は45.1%で、県より14.8ポイント下回った。小数少数第二位÷整数の問題の正答率も低いことからわり算に関して課題がみられる。</p>	<p>・わり算に関しては、苦手意識をもっている児童が多い。小数のかけ算やわり算の計算の仕組みをもう一度確認し、計算の技能の定着を図るための取組を朝の学習や授業の最初に取り入れていく。</p>
図形	<p>平均正答率は、県の平均と比べ低い。</p> <p>○およその面積を求める問題は42.2%で、県の正答率を若干上回っている。</p> <p>●ひし形の作図の問題は正答率が63.7%で、県の正答率より18.6ポイント下回っている。</p>	<p>・角の大きさを求めたり、立体の辺の性質を理解したりと、基礎基本の定着を図り、正確な図形を作図できるようにするために、5年生の図形の単元で4年生の復習をしながら進めていく。</p>
変化と関係	<p>平均正答率は、県の平均と比べ低い。</p> <p>○伴って変わる2つの数量の一方の値から、もう一方の値を求める問題は、正答率が80.4%と高かった。</p> <p>●基準量と比較量から求めた割合を比較して、どちらの包帯がよく伸びるのかを説明する問題の正答率は33.3%と低く、県の正答率より6.2ポイント下回った。</p>	<p>・割合に関する理解を深めるために、他の単元で2つの数量の関係を意識した声掛けをするとともに、他教科や学校生活の様々な場面で、倍を使った表現を使えるような活動を取り入れていく。</p> <p>・朝の学習や授業の最初に4年生までの復習ができるような課題に取り組む機会を作っていく。</p>
データの活用	<p>平均正答率は、県の平均と比べ低い。</p> <p>○二次元表の値を読み取る問題は、県の正答率とほぼ同じであった。</p> <p>●2つの折れ線グラフを読み取り、それを根拠に理由を説明する問題は正答率が15.7%と低く、県の正答率より15.6ポイント下回った。</p>	<p>・これまで以上に、他教科や学校生活の様々な場面で、表やグラフを読んだり表したりする活動を取り入れ、表やグラフを正しく読み取る力を育てる。また、読み取ったことから考えられることを文章でまとめる学習も取り入れて、資料を分析する力を育てていく。</p>